


白川地区

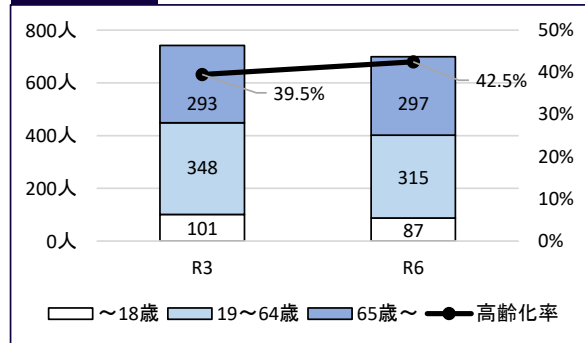
◆概要

	【位置図】	まち協名	白川地区まちづくり協議会		
		所在地	亀山市白木町2813-1	電話	0595-82-7131
		地区構成	白木町 小川町		
		地域特性	<p>亀山市の北西部に位置しており、自然豊かな尾根沿いの集落、上白木、下白木の白木地区及び小川地区からなっています。西の明星ヶ岳、北の雨引山に抱かれ、前田川及び椋川が流れています。亀山・関工業団地に隣接しており、交通の利便性も良く、最寄りには東名阪自動車道亀山スマートIC、フラワー道路、また、明星ヶ岳の中腹には国分寺、通称「虚空蔵(こくぞう)さん」があります。自治機能が色濃く残っており、小学校を核にしたつながりが強い地域です。</p>		
面積	1,760.8ha	ホームページ	https://xsshirakawa.xsrv.jp/kameyama-mie/		
めざす姿	ともに支え合い、ともに暮らせる『生き生きしらかわの郷』				
地域の誇り	白川小学校を地域の核に、地域の宝である子どもたちと強いつながりを持っている				

◆人口

	令和3年	令和6年	増減	
総人口	742人	699人	-43人	
人口密度	0.42人/ha	0.40人/ha	-0.02人/ha	
65歳以上	人口	293人	297人	4人
	比率	39.5%	42.5%	3.0%
18歳以下	人口	101人	87人	-14人
	比率	13.6%	12.4%	-1.2%
外国籍	人口	23人	21人	-2人
	比率	3.1%	3.0%	-0.1%

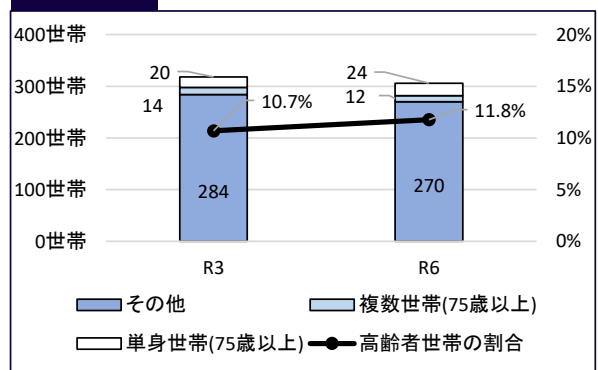
◆人口推移



◆世帯

	令和3年	令和6年	増減
総世帯	318世帯	306世帯	-12世帯
単身世帯(75歳以上)	20世帯	24世帯	4世帯
複数世帯(75歳以上)	14世帯	12世帯	-2世帯
高齢者世帯割合	10.7%	11.8%	1.1%

◆世帯推移



◆介護保険認定者

	令和3年	令和6年	増減
要支援1.2	15人	10人	-5人
要介護1～5	48人	43人	-5人
合計	63人	53人	-10人

◆地域組織

	令和3年	令和6年	増減
自治会	3	3	0
老人クラブ	2	2	0
子ども会	1	1	0

◆福祉・医療・教育等に関する社会資源

民生委員・児童委員	2
主任児童委員	1
福祉委員	10
介護保険施設・事業所	0
サービス付き高齢者向け住宅・有料老人ホーム	0
障がい福祉施設・事業所	0
児童福祉施設・事業所	0
病院・一般診療所	0
歯科診療所	0
薬局	0
保育所	0
幼稚園	0
認定こども園	0
放課後児童クラブ	0
放課後子ども教室	1
子育て支援センター	0
学校(小・中・高)	1
乗り合いタクシー停留所	17

◆担当地域包括支援センター

亀山第2地域包括支援センター もくれん

◆サロン活動

	令和3年	令和6年	増減
ふれあいいきいきサロン	1	2	1
子育てサロン	0	0	0
コミュニティサロン	0	0	0

◆福祉委員会活動

◆構成員 まち協役員 民生委員・児童委員 福祉委員

◆活動内容

【交流活動】

そば作りやもちつき集会、明星祭など高齢者と小学生の交流活動を行っています。

【訪問活動】

一人暮らし、二人暮らし高齢者の見守り訪問活動を白川小3.4年生と一緒にしています。



敬老会



炭焼き

◆まちづくり協議会の恒例事業

- ・地区運動会
- ・一斉清掃奉仕
- ・親子ふれあいBBQ
- ・夏祭り
- ・敬老会
- ・子供神輿
- ・スポーツ大会
- ・明星祭
- ・高齢者宅訪問
- ・炭焼き
- ・パソコン教室

◆生活支援コーディネーターからのコメント

白川地区の人口は市内で4番目に少ない699人で、そのうち42.5%にあたる297人が65歳以上です。地域内306世帯のうち、11.8%にあたる36世帯が75歳以上のみで構成されています。また、地域内人口の3.0%にあたる21人が外国籍です。地域の特色として、従来から住民同士で農作物のおすそわけが行われていますが、地区内に買い物ができる場所が無いことから平成29年より毎週末曜日に地区内6カ所を移動販売車が巡回し、住民の生活を支えています。

地域の活動として、白川小学校を中心に、駐在所や郵便局、農協の職員など様々な地域関係者と協力しながら三世代交流が進められています。令和5年度からは、地域行事に名阪・関工業団地に新しく立地された企業の関係者が参加するなど新たなつながりが育まれています。また、白川小学校の生徒と住民と一緒に作る「白川の炭」は令和6年4月よりふるさと納税返礼品として登録され、亀山市の特産品として周知されてきています。今後も白川小学校を核とし、地域活動を展開するとともに、住民同士の支え合い活動が仕組みとして展開されるよう検討する機運が高まっていくことが期待されます。